

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02281

研究課題名(和文) ショーペンハウアー研究の新世紀へ 主著刊行200周年を機縁とした国際共同研究

研究課題名(英文) International research project to mark the 200th anniversary of The World as Will and Representation: The New Century of Schopenhauer

研究代表者

高橋 陽一郎 (TAKAHASHI, Yoichiro)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：80333102

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,700,000円

研究成果の概要(和文)：思想と藝術の両分野に多大な影響を与えたショーペンハウアー(Arthur Schopenhauer, 1788-1860)の哲学に関する研究を、その主著『意志と表象としての世界』の刊行200周年を機縁とし、本書の成立史や現代的意義といった角度から行った。そのために計4回の国際研究集会を開催し、世界7か国から斯学の権威・若手研究者らが参集した。ショーペンハウアー哲学は、一つの体系として、認識論、存在論(自然哲学)、美学、倫理学(宗教論)の各領域を統べ、しかも4回にわたる研究集会の蓄積を得られたため、その成果は最新ということとどまらず、斯学の研究史上最大規模の成果となる見込みとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ショーペンハウアーの哲学は、古来「ペシミズム」と呼ばれてきたことが端的に示しているように、人間の現実の生活や人生観に密着した哲学である。そのため本研究は、とりわけ現今の世界が直面している病気や戦争といった困難な状況下で、あるいは環境問題や生命倫理問題といった問題圏のなかで、ショーペンハウアー哲学がいかなる意義を持ちうるかを最新資料に基づいて根拠づけた点に、そのもっとも大きな社会的意義と学術的意義を有し得たと思われる。しかし同時に、今回テキストそのものが持つ意図をその遺稿にまで遡って吟味したことも、そうした社会的・現代的意義を確実なものとするために是非とも必要な基礎的作業であったと思われる。

研究成果の概要(英文)：Our international research project to mark the 200th anniversary of "The World as Will and Representation" was the occasion for research on the philosophy of Arthur Schopenhauer (1788-1860), who greatly influenced both the fields of thought and art. The project was carried out from the perspective of the history of the book's formation and its contemporary significance. For this purpose, four international research conferences were held, bringing together authorities and young scholars in this and other fields from seven countries. Since the four research conferences were based on Schopenhauer's system that covers epistemology, ontology (philosophy of nature), aesthetics and ethics (theory of religion), the results were not only the up-to-date but also the largest in the history of research on his philosophy.

研究分野：哲学史、美学

キーワード：ショーペンハウアー 世界 苦

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ショーペンハウアー研究は、その哲学が成立期の文脈から完全に離れて受容されてきたために、長い間、本来の意図が忘却されるか、問われることなく放置されてきた。鎌田康男の研究 (Yasuo Kamata, *Der Junge Schopenhauer*, Freiburg/München 1988) 以来、遺稿を元にした形成史研究が世界的な広がりを見せ、ショーペンハウアーの主著『意志と表象としての世界』(以下主著と略す) 刊行 200 周年を迎える 2018 年及び 19 年を迎え、この哲学者の思想の形成史を国際的な連携のなかで研究する素地の整いつつあったことが背景となった。

2. 研究の目的

本研究は、ショーペンハウアーの主著 (奥付 1819 年/刊行 18 年) の新解釈を打ち出すことを目的とした。近年、上述のような事情を背景として、世界各国で精密な文献考察に基づいた彼の哲学の研究が進展している。しかし、同書の形成過程や哲学史的な位置づけ、および現代的意義については、まだ明らかにすべきことが多かった。本研究では、同書刊行 200 周年を機縁とした国際的な共同研究を行うことで、各国研究者の蓄積を相互に照らし合わせ、同書の形成史および哲学史的な位置を再考するとともに、彼の哲学の現代的意義 (生命/環境倫理、宗教問題、地球的正義などへの視座) を提示することを目的に掲げた。それによって、ショーペンハウアー哲学が、9・11 以後、3・11 以後の「暗い時代」を生きるさまざまな人々に必要とされる哲学であることが示されると期待された。

3. 研究の方法

本研究の方法としては、第一に文献学的方法が挙げられる。これは、形成史的研究をさらに深化させるために、遺稿の新版や主著批判版の編集途上で発見された諸問題を共有しながら、哲学者が生涯のうち三度にわたって刊行した主著の版ごとの異同を厳密に区分することに適用された。第二に歴史学的方法が挙げられる。これは、ショーペンハウアー哲学の「変質」を解明するために、彼の哲学と関係する同時代の他思想や諸科学の動向を詳細に調査するために適用された。第三に比較思想的方法が挙げられる。これは、現代的諸問題の性格とショーペンハウアー哲学との接点を検討し、後者を現代に役立てるための道を探るべく適用された。また、これらの課題の達成のためには国内外の研究者との議論は重要な要素となる。そのため、全 4 回の国際会議 (研究集会) を開催した。

4. 研究成果

(1) 主著に関する総合的研究の集積

本研究プロジェクトでは、研究成果の発表機会として、計 4 回の国際的な研究集会を開催した。その各々の研究集会名は以下の通りである。

第一回:「若きショーペンハウアーとその時代 『意志と表象としての世界』前史または成立史」
(2018 年 2 月 21 日・22 日、関西学院大学)

第二回:「『意志と表象としての世界』を読み直す 全体構想、各巻主題、そして〈ショーペンハウアーと「東洋」〉」(2019 年 2 月 19 日・20 日・21 日・22 日、龍谷大学)

第三回:「意志の否定とは何か? ショーペンハウアーの救済論と宗教哲学」(2019 年 10 月 26 日、フランクフルト大学)

第四回:「ショーペンハウアーの新世紀」(2020 年 2 月 22 日・23 日・24 日、日本大学文理学部)

以上四回の研究集会では、主著の生成史（第一回）、四巻にわたる主著の全体構想（第二回）、主著第四巻の宗教哲学（第三回）、主著の思想の現代的意義と可能性（第四回）について検討・議論されたため、各研究はいずれも主著に関連づけられながら、全体として見ればこの書を総合的に検討する結果となった。とりわけ、「意志と表象としての世界」という主著のタイトルに注目する論考が多く集まった点は、本研究の総合性に統一感を与える特徴であったと言いうる。

（２）主著の生成史に関する詳細な調査

第一回研究集会では、主著の生成史に関する文献学的研究が多く開陳され、現時点での最新の遺稿資料に基づいて、主著がどのような哲学思想の影響を受けて醸成されてきたかということが具に明らかにされた。具体的には、ライプニッツ=ヴォルフ派、カントの批判主義、初期ロマン主義、ウパニシャッド哲学などからの影響が、ショーペンハウアー哲学の新たな思想的源泉として明らかになった。

（３）主著の全体構想に関する新たな解釈と「東洋」概念の検討

第二回研究集会では、まず主著に反映されたショーペンハウアーの哲学的構想や、中心概念である「意志 (Wille)」に関する分析的研究が開陳された。そのほか、この哲学者を嚆矢とする、ヨーロッパにおける「東洋」観の形成に関する歴史学的検討も合わせて行われた。後者について言えば、ショーペンハウアーはヨーロッパ世界においてもっとも早い時期に、ウパニシャッド哲学や仏教思想を自家薬籠中のものとした。東洋に関する情報の質と量は「19世紀」の「ドイツ」に制約されていたが、その受容の仕方は、最初からステレオタイプな「<西洋>対<東洋>」という図式を止揚するグローバルな視点からなされていた。そうしたショーペンハウアーのグローバルな視点から、いわゆる「東洋」の概念としての当否に批判的な視線を向けたこと、とりわけ、ショーペンハウアー哲学を基礎とした「東洋」概念の再吟味を通じて文化多元主義的な思想理解の可能性を見出したことが、本研究の独自の成果として評価され得る。

（４）倫理学および宗教哲学に関する新視点の提示

第三回研究集会では、第二回研究集会での成果が手薄であるとあらかじめ予想された、主著第四巻の主題（倫理学および宗教哲学）に特化するかたちで研究が行われた。これは、フランクフルト大学で開催された国際ショーペンハウアーの大会 *Das Hauptwerk: 200 Jahre Arthur Schopenhauers Die Welt als Wille und Vorstellung* (2019年10月23日・24日・25日・26日)の最終日に組み入れられ、すでにその成果が刊行されている ((Hg.) Dieter Birnbacher und Matthias Koßler, *Das Hauptwerk: 200 Jahre Arthur Schopenhauers Die Welt als Wille und Vorstellung*, Königshausen & Neumann, 2022)。ショーペンハウアーの倫理学と宗教哲学との連続性の問題、「泣く (Weinen)」という行為の意味、ショーペンハウアー倫理学に対するアッシジのフランチェスコの影響などを考察した点が新しい成果として認められる。

（５）影響史と現代的意義に関する研究成果

第四回（最終回）研究集会では、生成史と並び最新資料に基づく新しい主著像の提示に寄与する研究が発表された。影響史研究について言えば、これまでもショーペンハウアーは、ニーチェ、ヴァーグナー、フロイト、ヴィトゲンシュタイン等の思想家たちに強い影響を与えた哲学者として認知されていたが、今回は新たに、マックス・シェラー、ミシェル・アンリ、(ヴィト

ゲンシュタインだけでなく)分析哲学等への影響が指摘された。これは、一方で比較思想的な手法を伴いつつも、他方、新しい資料に基づく徹底して文献学的な手法による影響関係の指摘を多く含む点で、旧来の研究成果を刷新するものであった。また現代的意義や思想の可能性について記せば、「反出生主義」、「動物倫理学」、「尊厳死問題」といった現代的問題を解決する思想的糸口を示す先駆者としてのショ - ペンハウアー像が新たに示された。

以上の研究成果は、日本大学文理学部学術出版助成を得て、Königshausen & Neumann より刊行される予定である。なお、これまでの研究集会の概要は以下のサイトで公開されている。

<http://schopenhauer.org/www200/>

<https://www.schopenhauer.de/veranstaltungsarchiv>

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計44件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 高橋陽一郎	4. 巻 99
2. 論文標題 藝術における〈刺激的なもの〉 ショーベンハウアー-美学を手掛かりとしたある藝術的アポリアの意味	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本大学文理学部人文科学研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 板橋勇仁	4. 巻 23
2. 論文標題 ショーベンハウアーにおける宗教と科学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ショーベンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 68-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 板橋勇仁	4. 巻 18
2. 論文標題 科学の共同性と宗教-C.S.パースを手掛かりにして	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 プロセス思想	6. 最初と最後の頁 39-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 板橋勇仁	4. 巻 1
2. 論文標題 華嚴思想與京都學派：以西田幾多郎の哲學為中心	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 諦觀法界：東亞視域下の華嚴思想	6. 最初と最後の頁 57-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋勇仁	4. 巻 1
2. 論文標題 Nishida's Immanent Philosophy of Consciousness as Nothingness	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tetsugaku Companion to Phenomenology and Japanese Philosophy	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋勇仁	4. 巻 1
2. 論文標題 Experience and Reasoning	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Science and Mind in Contemporary Process Thought	6. 最初と最後の頁 112-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋勇仁	4. 巻 1
2. 論文標題 Biology and the Philosophy of History: Nishida Kitaro; and the Philosophy of "Necessity that Includes Freedom"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Natural Born Monads: On the Metaphysics of Organisms and Human Individuals	6. 最初と最後の頁 199-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤智志	4. 巻 702
2. 論文標題 ショーペンハウアーの 批判史学	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 理想	6. 最初と最後の頁 14-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤智志	4. 巻 25
2. 論文標題 超越論的觀念論から經驗的實在論への移行 問題に定位した、『意志と表象としての世界』正編「第一部」諸版の比較検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ショーペンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 24-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 33
2. 論文標題 ショーペンハウアー 哲学の受容とその時代	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実存思想論集	6. 最初と最後の頁 33-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 23
2. 論文標題 ショーペンハウアー 倫理学の超越論哲学的構造	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ショーペンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 141-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 28
2. 論文標題 若きショーペンハウアーのフィヒテ研究ノート 『道徳論の体系』を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フィヒテ研究	6. 最初と最後の頁 73-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 101
2. 論文標題 he Kantian Framework of Schopenhauer 's Ethics: Right, Justice, Compassion, and Asceticism	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Schopenhauer Jahrbuch	6. 最初と最後の頁 173-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 25
2. 論文標題 コンテクストのなかのショーペンハウアー自然哲学 カント・シェリング・フィヒテのアナロジー論と対比しつつ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ショーペンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 34-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤貴雄	4. 巻 12
2. 論文標題 Religion and Ethics in Schopenhauer	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voluntas: Revista Internacional de Filosofia	6. 最初と最後の頁 e15 ~ e15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5902/2179378667751	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野山晃弘	4. 巻 23
2. 論文標題 ショーペンハウアーの動物倫理再考 動物倫理から生命の倫理へ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ショーペンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 127-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 多田光宏	4. 巻 23
2. 論文標題 ショーペンハウアーにおいて尊厳死はいかにして許容され得るか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ショーペンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 94-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 23
2. 論文標題 「神は死んだ」のか? ニーチェにおける宗教と科学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ショーペンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 50-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 49
2. 論文標題 超越者なき自己超越 ニーチェにおける超越と倫理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 1
2. 論文標題 Wer ist der gute Europaeer? --- Aus der Perspektive der Japanischen Nietzsche-Forschungsgeschichte	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European/supra-European: cultural encounters in Nietzsche's philosophy	6. 最初と最後の頁 349-359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 1
2. 論文標題 Was bedeutet Nietzsches Kritik am Christentum in der postsaekularen Gesellschaft?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nietzsche und die Reformation	6. 最初と最後の頁 319-330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 34
2. 論文標題 ニーチェの同情 = 共苦批判について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 龍谷哲学論集	6. 最初と最後の頁 61-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 40
2. 論文標題 Think Rationally but Feel Spiritually: A Nihilistic Dualism in Modern Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Teoria. Rivista di filosofia	6. 最初と最後の頁 137-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内 綱史	4. 巻 57
2. 論文標題 意味ある人生とは必然的に不道徳なのではないか? : ニーチェとショーペンハウアーから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 哲学論文集	6. 最初と最後の頁 77 ~ 103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15017/4495892	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 52
2. 論文標題 ニーチェにおける自然主義と率先垂範の倫理	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メタフシカ	6. 最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹内綱史	4. 巻 45
2. 論文標題 生のトータルな肯定は可能か ショーペンハウアーとニーチェから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代と親鸞	6. 最初と最後の頁 233-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河村克俊	4. 巻 XVIII
2. 論文標題 カントの二律背反論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語外国文化研究	6. 最初と最後の頁 1-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河村克俊	4. 巻 22
2. 論文標題 ヴォルフの著書にみるドイツ語の所概念 認識に関わるターミノロジー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語と文化	6. 最初と最後の頁 57-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河村克俊	4. 巻 25
2. 論文標題 ショーペンハウアーのカント批判 「統覚」と「原因性としての自由」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ショーペンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 44-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河村克俊	4. 巻 24
2. 論文標題 『純粹理性批判』における「力学的アンチノミー」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語と文化	6. 最初と最後の頁 81-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌田康男	4. 巻 v. 30 n. 49
2. 論文標題 A recepcao de Kant pelo jovem Schopenhauer em Sobre a quadrupla raiz do principio de razao suficiente	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Revista de Filosofia Aurora	6. 最初と最後の頁 236-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌田康男	4. 巻 33
2. 論文標題 ショーペンハウアー哲学の誕生とその時代	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実存思想論集	6. 最初と最後の頁 5-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌田康男	4. 巻 9(1)
2. 論文標題 Die transzendente Idealitaet und die empirische Realitaet der Welt als Wille und Vorstellung, Philosophieren und Philosophie bei Schopenhauer	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Voluntas - Revista International de Filosofia	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌田康男	4. 巻 9(1)
2. 論文標題 Da idealidade transcendental e a realidade empirica do mundo como vontade e representacao, filosofar e filosofia em Schopenhauer	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Voluntas - Revista International de Filosofia	6. 最初と最後の頁 39-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西章	4. 巻 23
2. 論文標題 「ショーベンハウアーと生命倫理」報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ショーベンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 84-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西章	4. 巻 52
2. 論文標題 若きショーベンハウアーの哲学的構想における学位論文第一版(1813年)の位置づけ: ノヴェンブレ 論文を手引きとして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 哲学研究年報	6. 最初と最後の頁 90-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林由貴子	4. 巻 30
2. 論文標題 A estrutura da Etica da Compaixao de Schopenhauer em relacao a Filosofia Transcendental	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Revista de Filosofia Aurora	6. 最初と最後の頁 255-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7213/1980-5934.30.049.DS12	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齋藤智志	4. 巻 第34巻
2. 論文標題 「普遍妥当的教育学の可能性について」再読 デルタイの教育学と世界観学を 繋ぐものと隔てるもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 杏林大学研究報告教養部門	6. 最初と最後の頁 15-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤智志	4. 巻 第33号
2. 論文標題 ショーペンハウアー哲学は意志形而上学か？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 実存思想論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋勇仁	4. 巻 68(1)
2. 論文標題 Grounded on Nothing: The Spirit of Radical Criticism in Nishida's Philosophy	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Philosophy East and West	6. 最初と最後の頁 97-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板橋勇仁	4. 巻 第25号
2. 論文標題 根拠なしの共同 ショーペンハウアーの現代性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 フィヒテ研究	6. 最初と最後の頁 41-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌田康男	4. 巻 Band 4.
2. 論文標題 Mainlaender und Ryunosuke Akutagawa	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Internationale Mainlaender-Studien	6. 最初と最後の頁 63-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎌田康男 (Lucas Lazarini Valente訳)	4. 巻 Volume 8 (2-2)
2. 論文標題 IDEIA PLATONICA E O MUNDO INTUITIVO EM SCHOPENHAUER	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Revista Voluntas. Estudos sobre Schopenhauer	6. 最初と最後の頁 150-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林由貴子	4. 巻 第22号
2. 論文標題 超越論哲学と倫理学のはざまのショーペンハウアー : 苦とイデアについての考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ショーペンハウアー研究	6. 最初と最後の頁 191-205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計64件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 19件）

1. 発表者名 高橋陽一郎
2. 発表標題 Schopenhauers kritischer Naturalismus
3. 学会等名 Das Hauptwerk. 200 Jahre Arthur Schopenhauers "Die Welt als Wille und Vorstellung" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋陽一郎
2. 発表標題 藝術における<刺激的なもの> ショーペンハウアー美学を手掛かりとしたある藝術的アポリアの意味
3. 学会等名 科研基盤研究(C) 課題番号17K02183第3回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋陽一郎
2. 発表標題 ショーペンハウアーにおける自然哲学の諸問題
3. 学会等名 科研基盤研究(C) 課題番号17K02183第2回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋陽一郎
2. 発表標題 Die Auseinandersetzung ueber avidya (Nichtwissen) in Japan -Eine Antwort von Anesaki oder Schopenhauer-
3. 学会等名 Schopenhauer International Colloquium Brazil (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋陽一郎
2. 発表標題 主著発刊200周年記念企画 『意志と表象としての世界』を観る、読む、語り合う
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第31回全国大会(ワークショップ)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤智志
2. 発表標題 ショーペンハウアーにおける超越論哲学と自然哲学
3. 学会等名 科研基盤研究(C) 課題番号17K02183第2回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤智志
2. 発表標題 ショーペンハウアーの自然科学批判
3. 学会等名 科研基盤研究(C) 課題番号17K02183第2回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤智志
2. 発表標題 ショーペンハウアーとニーチェ 意志の否定か、意志の肯定か?
3. 学会等名 科研基盤研究(C) 課題番号17K02183第2回研究会(むつ市市民講座の共催)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤智志
2. 発表標題 超越論的觀念論から經驗的實在論への移行 問題に定位した、『意志と表象としての世界』正編「第一部」諸版の比較検討
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会・第32回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齋藤智志
2. 発表標題 Schopenhauer's 'Kritische Historik'
3. 学会等名 Das neue Jahrhundert Schopenhauers（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤智志
2. 発表標題 ショーペンハウアー哲学の限界点としての無 意志否定論に対する批判の検討
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会・第32回関東地区研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 齋藤智志
2. 発表標題 学知と自由 ショーペンハウアー「大学哲学について」を読む
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会・第34回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 The Transcendental-philosophical Structure of Schopenhauer 's Ethical Theory
3. 学会等名 XXIV World Congress of Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 意志のアナロジーに関する一考察
3. 学会等名 科研基盤研究 (C) 課題番号17K02183第 2 回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 Der Staat als Wille und Vorstellung
3. 学会等名 Die Welt als Wille und Vorstellung neu lesen - die ganze Konzeption, die Hauptthemen und <Schopenhauer und "das Morgenland "> (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 高橋陽一郎著 『藝術としての哲学 ショーペンハウアー哲学における矛盾の意味』 へのレスポンス
3. 学会等名 高橋陽一郎著 『藝術としての哲学 ショーペンハウアー哲学における矛盾の意味』 合評会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 コンテクストのなかのショーペンハウアー自然哲学
3. 学会等名 科研基盤研究(C) 課題番号17K02183第3回研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 Right, Justice, Compassion and Asceticism: a Transcendental-philosophical Interpretation of them
3. 学会等名 豪日ショーペンハウアー・コロキウム2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 Hegel und Schopenhauer Sittenlehre gegen den Satz vom Grund
3. 学会等名 Das Hauptwerk. 200 Jahre Arthur Schopenhauers "Die Welt als Wille und Vorstellung" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 Zur Genese der Schopenhauerschen Rechtsphilosophie Die Strafrechtslehre
3. 学会等名 マインツ大学ドイツ観念論研究会2019年度研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 若きショーペンハウアーのフィヒテ研究ノート
3. 学会等名 日本フィヒテ協会第35回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 ショーペンハウアーと政治
3. 学会等名 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻プロジェクト科目講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 コンテクストにおけるショーペンハウアー自然哲学　カント・シェリング・フィヒテと対比しつつ
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第32回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 Religion and Ethics in Schopenhauer
3. 学会等名 Schopenhauer International Colloquium Brazil（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 Nietzsche ' s Critique of Schopenhauer ' s Morality of Compassion
3. 学会等名 The XXIV World Congress of Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 ニーチェによるショーペンハウアーの共苦道德批判
3. 学会等名 科研基盤研究 (C) 課題番号17K02183第 2 回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 Die "Kritische Historie " in der Historienschrift als die erste Methodologie der Philosophie Nietzsches
3. 学会等名 29. Internationaler Nietzsche-Kongress in Naumburg (Saale) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 超越者なき自己超越 ニーチェにおける超越と倫理
3. 学会等名 関西哲学会2018年度大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 現代ニーチェ研究から見たヤスパースのニーチェ解釈
3. 学会等名 日本ヤスパース協会第35回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 ニーチェのMitleid批判と「悪」の問題
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第31回ニーチェ・セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 ショーペンハウアーの倫理学と救済論
3. 学会等名 日本宗教学会第78回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 Schopenhauer als Religionsphilosoph. Ueber den Uebergang vom Mitleid zur Verneinung des Willens
3. 学会等名 Das Hauptwerk. 200 Jahre Arthur Schopenhauers Die Welt als Wille und Vorstellung
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河村克俊
2. 発表標題 ショーペンハウアーのカント批判 「統覚」と「原因性としての自由」
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第32回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河村克俊
2. 発表標題 Schopenhauers Kritik an Kants Begriff der Freiheit als Kausalitaet
3. 学会等名 Das neue Jahrhundert Schopenhauers
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鎌田康男
2. 発表標題 ショーペンハウアーの哲学理解
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第31回全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鎌田康男
2. 発表標題 Duplicity of the Philosophical Consciousness, Arthur Schopenhauer's Understanding of Philosophy.
3. 学会等名 Die Welt als Wille und Vorstellung neu lesen - die ganze Konzeption, die Hauptthemen und <Schopenhauer und "das Morgenland"> (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西章
2. 発表標題 Die Offenbarung des Schöml;nen im Schweigen des Willens: Schopenhauer contra Nietzsche?
3. 学会等名 Die Welt als Wille und Vorstellung neu lesen - die ganze Konzeption, die Hauptthemen und <Schopenhauer und "das Morgenland" > (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林由貴子
2. 発表標題 The Significance of Schopenhauer ' s Compassion Theory in Modern Society
3. 学会等名 XXIV World Congress of Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林由貴子
2. 発表標題 Die Ethiklehre Schopenhauers in der Welt als Wille und Vorstellung - im Hinblick auf Realität und Wirklichkeit
3. 学会等名 Die Welt als Wille und Vorstellung neu lesen - die ganze Konzeption, die Hauptthemen und <Schopenhauer und "das Morgenland" > (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋陽一郎
2. 発表標題 Idee und Zeit Die Probleme der Ideenlehre beim jungen Schopenhauer
3. 学会等名 Der junge Schopenhauer und seine Zeit (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 上野山晃弘
2. 発表標題 近代批判としての自然哲学 ショーペンハウアーの動物倫理再考
3. 学会等名 科研基盤研究(C) 課題番号17K02183第1回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野山晃弘
2. 発表標題 ショーペンハウアーの動物倫理再考
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第30回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上野山晃弘
2. 発表標題 Rethinking Schopenhauer's animal ethics
3. 学会等名 Das neue Jahrhundert Schopenhauers
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤貴雄
2. 発表標題 ショーペンハウアー哲学の受容とその時代 世紀末から世界大戦、そして現代へ
3. 学会等名 実存思想協会第33回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤智志
2. 発表標題 ショーペンハウアーの自然科学批判
3. 学会等名 科研基盤研究(C) 課題番号17K02183第1回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 多田光宏
2. 発表標題 ショーペンハウアーにおいて尊厳死はいかにして許容され得るか
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第30回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 多田光宏
2. 発表標題 Wie kann der Tod mit Wuerde bei Schopenhauer erlaubt werden?
3. 学会等名 Das neue Jahrhundert Schopenhauers
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 板橋勇仁
2. 発表標題 ショーペンハウアーにおける宗教と科学
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第30回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 「神は死んだ」のか？ ニーチェにおける宗教と科学
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会・キェルケゴール協会共催シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 Was bedeutet Nietzsches Kritik am Christentum in der postsaekularen Gesellschaft?
3. 学会等名 Nietzsche-Gesellschaft Internationaler Kongress in Naumburg (Saale) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 ニーチェにおける「自然主義的転回」の帰趨 第四『反時代的考察』から『人間的、あまりに人間的』へ
3. 学会等名 科研基盤研究(C) 課題番号17K02183第1回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 ショーペンハウアーとニーチェにおける「自然」と「意志」
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第27回ニーチェセミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 Schopenhauer als Religionsphilosoph. Ueber den Uebergang vom Mitleid zur Verneinung des Willens
3. 学会等名 Das Hauptwerk. 200 Jahre Arthur Schopenhauers “Die Welt als Wille und Vorstellung”
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 Think Rationally but Feel Spiritually: A Nihilistic Dualism in Modern Japan
3. 学会等名 Congress of the International Center of Studies on Contemporary Nihilism: Forms of Contemporary Nihilism
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 ワークショップ「永遠回帰」提題
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第32回ニ－チェ・セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 ニ－チェの(反)科学主義と価値
3. 学会等名 基盤研究(C) 課題番号17K02183第4回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 意味ある人生とは必然的に不道德なのではないか？ ニーチェとショーペンハウアーから
3. 学会等名 九州大学哲学会令和2年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹内綱史
2. 発表標題 生のトータルな肯定は可能か ショーペンハウアーとニーチェから
3. 学会等名 親鸞仏教センター第2回「現代と親鸞」公開シンポジウム（オンライン）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鎌田康男
2. 発表標題 Die transzendente Deduktion des Leibes beim jungen Schopenhauer
3. 学会等名 Der junge Schopenhauer und seine Zeit (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鎌田康男
2. 発表標題 ショーペンハウアー哲学の誕生とその時代 啓蒙主義からフランス革命、そしてドイツ観念論へ
3. 学会等名 実存思想協会第33回大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鎌田康男
2. 発表標題 Die transzendentale Idealitaet und die empirische Realitaet der Welt als Wille und Vorstellung - Philosophieren und Philosophie bei Schopenhauer
3. 学会等名 VIII SCHOPENHAUER INTERNATIONAL COLLOQUIUM (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西章
2. 発表標題 若きショーペンハウアーの哲学構想における学位論文第一版の位置づけ：ノヴェンブレ氏の論文を手引きとして
3. 学会等名 日本ショーペンハウアー協会第30回全国大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林由貴子
2. 発表標題 Ueber den Begriff des Gefuehls des jungen Schopenhauer
3. 学会等名 Der junge Schopenhauer und seine Zeit (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林由貴子
2. 発表標題 Die Struktur der Mitleidsethik Schopenhauers in Bezug auf die Transzendentalphilosophie
3. 学会等名 VIII SCHOPENHAUER INTERNATIONAL COLLOQUIUM (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 板橋勇仁	4. 発行年 2021年
2. 出版社 現代書館	5. 総ページ数 210
3. 書名 こわばる身体がほどけるとき	

1. 著者名 陶久明日香・長網啓典・渡辺和典編、齋藤智志他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 工作舎	5. 総ページ数 454
3. 書名 モナドから現存在へ 酒井潔教授退職記念献呈論集	

1. 著者名 ゲルノート・ペーメ（河村克俊寛監訳、浅野貴彦、高原英喜、西章訳）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 210
3. 書名 新しい視点から見たカント 『判断力批判』	

1. 著者名 山岡政紀・伊藤貴雄・蝶名林亮（共編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 280
3. 書名 ヒューマニティーズの復興をめざして 人間学への招待	

1. 著者名 竹内綱史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Walter de Gruyter	5. 総ページ数 -
3. 書名 Wer ist der gute Europaeer? " --- Aus der Perspektive der Japanischen Nietzsche-Forschungsgeschichte, in Europaeisch-Uebereuropaeisch. Nietzsches Blick aus der Ferne	

1. 著者名 Volker Gerhardt, Beatrix Himmelmann, Gerald Hoedl, Sebastian Kaufmann, Dagmar Kiesel, Duncan Large, Enno Rudolph, Michael Schmidt-Salomon, Christoph Tuercke, Tsunafumi Takeuchi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 De Gruyter	5. 総ページ数 319-330
3. 書名 Nietzsche und die Reformation	

1. 著者名 樋笠勝士(編)、高橋陽一郎他著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 月曜社	5. 総ページ数 341
3. 書名 フィクションの哲学 詩学的虚構論と複数世界論のキアスム	

1. 著者名 D. Birnbacher, M. Kossler (Hg.) 高橋陽一郎・伊藤貴雄・竹内綱史ほか著	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Koenigshausen und Neumann	5. 総ページ数 475
3. 書名 Das Hauptwerk, 200 Jahre Arthur Schopenhauers Die Welt als Wille und Vorstellung	

1. 著者名 岡村俊史・竹内綱史・新名隆志（翻訳）バーナード・レジンスター	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 519
3. 書名 生の肯定 ニーチェにおけるニヒリズムの克服	

1. 著者名 伊藤邦武・中川明才・竹内綱史・佐々木隆治・神崎宣次・原田雅樹・小川仁志・三宅岳史・富澤かな・苅部直	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 254
3. 書名 世界哲学史 7	

1. 著者名 竹内綱史ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 642
3. 書名 ハイデガー事典	

1. 著者名 ディーター・ビルンバッハー著（加藤泰史・河村克俊ほか訳）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 528
3. 書名 生命倫理学 自然と利害関心の間	

1. 著者名 中川慎二、河村克俊、金尚均（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 242
3. 書名 インターネットとヘイトスピーチ	

1. 著者名 河村克俊	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 252
3. 書名 カントと十八世紀ドイツ講壇哲学の自由概念	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上野山 晃弘 (UENOYAMA Akihiro) (00440024)	日本大学・危機管理学部・講師 (32665)	
研究分担者	板橋 勇仁 (ITABASHI Yujin) (30350341)	立正大学・文学部・教授 (32687)	
研究分担者	多田 光宏 (TADA Mitsuhiro) (40413710)	苫小牧工業高等専門学校・創造工学科・准教授 (50102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹内 綱史 (TAKEUCHI Tsunafumi) (40547014)	龍谷大学・経営学部・准教授 (34316)	
研究分担者	伊藤 貴雄 (ITO Takao) (70440237)	創価大学・文学部・教授 (32690)	
研究分担者	齋藤 智志 (SAITOH Satoshi) (70442019)	杏林大学・外国語学部・教授 (32610)	
研究分担者	河村 克俊 (KAWAMURA Katsutoshi) (90283910)	関西学院大学・法学部・教授 (34504)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Die Welt als Wille und Vorstellung neu lesen - die ganze Konzeption, die Hauptthemen und <Schopenhauer und "das Morgenland">	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Der junge Schopenhauer und seine Zeit	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Was bedeutet Verneinung des Willens? Schopenhauers Erloesungslehre und die Religionsphilosophie	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Das neue Jahrhundert Schopenhauers	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ドイツ	Schopenhauer-Gesellschaft	Schopenhauer-Forschungsstelle	
ブラジル	Schopenhauer-Gesellschaft, Brasil		